

追悼記事

橋爪壮先生を偲ぶ

西條 政幸

国立感染症研究所ウイルス第一部

橋爪壮博士（千葉大学医学部名誉教授，日本ウイルス学会名誉会員）が，2016年9月21日逝去されました。日本ウイルス学会会員の皆さんとともに心よりご冥福をお祈り申し上げます。

私は，橋爪先生が開発されました高度弱毒細胞培養痘そうワクチン LC16m8 について，その有効性と安全性に関して研究しています。LC16m8 ワクチンの研究を進めるほど，このワクチンの性質の理解が深まると同時に，その性質の科学的基盤を明らかにすることの難しさにも直面します。橋爪先生と研究グループにより開発された LC16 m8 ワクチンは，バイオテロ対策の一環として日本で生産・備蓄されています。毎年，世界保健機関が開催する Advisory Committee for Variola Virus Research (ACVVR) に専門家として出席しているのですが，その場で LC16m8 ワクチンに関する研究成果が報告され，痘瘡ワクチンの備蓄のあり方が討議されたりする場合には必ず LC16m8 もその対象となります。LC16m8 ワクチンは世界的にも重要な痘瘡ワクチンです。

私は LC16m8 ワクチン研究を通じて橋爪先生と出会い，指導を受けてきました。橋爪先生は，研究への情熱と謙虚さを兼ね備えた素晴らしい研究者です。いつも適切に研究について指導して下さいました。個人的には，私や共同研究を行ってきた方々に，いつも柔和に，優しく接して下さいたことを忘れることができません。橋爪先生を師と仰ぐ高校・大学時代から長い間交友のある方が，宮澤賢治の代表的な詩，「雨ニモ負ケズ，風ニモ負ケズ，雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ丈夫ナカラダヲモチ，欲ハナク，決シテ怒ラズ，

イツモ静カニ笑ッテイル」，この詩を口ずさむたびに橋爪先生の温顔が臉の前に浮かんできますと仰っておられます。このお話しを伺い，私が橋爪先生に抱いていたお人柄が正しかったことを改めて確信しました。

痘瘡ワクチン Lister 株から樹立された弱毒生ワクチンで，このワクチンを受けた人で重篤な副作用を発症した人がおらず，安全性が確保されたワクチンです。橋爪先生がこのワクチンを開発された当時，すでに天然痘が地球上から根絶されつつある時期で，このワクチンの痘瘡予防に関する有効性は確認されていませんでした。その後，サル痘ウイルス感染霊長類モデルを用いたサル痘発症予防効果が確認され，実際に人に接種したときに誘導される免疫が痘瘡ウイルスに対する中和抗体を誘導するといった成績が発表されています。西アフリカでは天然痘に類似する疾患，ヒトサル痘が流行しています。LC16m8 ワクチンはヒトサル痘に有効であると考えられ，将来ヒトサル痘発症予防に使用されるようになることが期待されています。バイオテロ対策として LC16m8 ワクチンが備蓄されていますが，世界で安全で有効な痘瘡ワクチンを生産できる施設は2カ所に限られます。その1つが化学療法及血清療法研究所（化血研，熊本）であり，そこで LC16m8 が生産されています。これからも LC16m8 ワクチンの重要性は変わらないと考えられます。

橋爪先生は日本酒の大好きな先生でした。何度か一緒に会食する機会に恵まれましたが，美味しそうに，そして，楽しそうにお酒を嗜むお姿を思い出します。改めてご冥福申し上げます。

橋爪先生への追悼文の執筆にあたり，橋爪先生の奥様，八重子様からお写真をいただき，また，橋爪先生に関する資料を読ませていただきました。八重子様にお礼申し上げます。

合掌。

連絡先

〒162-8640

東京都新宿区戸山 1-23-1

国立感染症研究所ウイルス第一部

TEL: 03-4582-2660

FAX: 03-5285-1169

E-mail: msaijo@niid.go.jp



ASM Biodefense Research Meeting (2008年2月25日, 米国 Baltimore Marriot Waterfront Hotel) において、演題「Highly Attenuated Smallpox Vaccine LC16m8 Protects Mice Against Lethal Orthopoxvirus Challenge Over The Long Term」を発表した際に、化血研の横手公幸さん(左から3人目)、金原知美さん(左から1番目)、新村靖彦さん(左から4人目)とともに撮影された時の橋爪先生(左から2人目)。その時に研究打ち合わせのために訪問した米国 National Institute of Health (ベセスダ, メリーランド州)にて。

故 橋爪壮先生 御略歴

生年月日：大正15年3月18日生

昭和23年4月	千葉医科大学(現、千葉大学医学部)入学
昭和27年3月	同大学卒
昭和28年5月	千葉大学医学部細菌学教室研究生
昭和29年4月	千葉大学医学部細菌学教室副手
昭和31年11月	千葉県血清研究所非常勤職員兼務
昭和35年4月	千葉県技術吏員、千葉県血清研究所組織培養部ポリオ室長
昭和38年4月	同研究所組織培養部長
昭和43年4月	同研究所特別医学研究院
昭和44年4月	同研究所研究室第二部長
昭和46年4月	同研究所研究室長
昭和51年3月	同研究所退職
昭和51年4月	千葉大学教授(看護学部病態学講座)就任
平成3年3月	同大学定年退職
平成3年4月	財団法人日本ポリオ研究所常務理事
平成4年5月	同研究所理事長
平成15年3月	同研究所退職



橋爪壮先生

賞 罰

平成15年10月	第39回小島三郎記念文化賞(細胞培養弱同痘瘡ワクチン研究開発の業績)
平成23年12月	第6回日本ワクチン学会高橋賞(高度弱毒化細胞培養天然痘ワクチン LC16m8 の開発)